

看護学科 3年 後期 専門基礎科目／専門科目

1. 保健医療福祉統計概説
2. 総合実習

看護学科

科目名: 保健医療福祉統計概説				担当教員 氏名: 山元恵子とりまとめ 他		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	3年次	後期	専門基礎科目	講義	必修	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護職、医療職等の現場の豊富な経験と知見を有する専門の講師によるオムニバスで授業を行う			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> 日本における保健・医療・福祉に関する統計的数値を読み解き、看護実践に活かすことができる。 各専門領域の教員が担当し3年間の復習と国家試験受験のための標準的な知識の獲得である。 看護師として総合的な知識を確認するための「看護師国家試験受験資格認定科目」である。 					統計指標 疾病対策 医療対策 福祉対策	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)						
A 知識・理解力	①衛生の主要指標と結びつけながら、健康増進と生活習慣病対策について考える。					
C 論理的思考力	②衛生の主要指標と結びつけながら、母子保健について考える。					
D 問題解決力	③衛生の主要指標と結びつけながら、感染症対策について考える。					
	④衛生の主要指標と結びつけながら、精神保健について考える。					
	⑤衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(腎疾患・リウマチ・アレルギー)について考える。					
⑥衛生の主要指標と結びつけながら、疾病対策(がん、難病)について考える。						
⑦衛生の主要指標と結びつけながら、地域包括ケア、介護保険、在宅看護について考える。						
⑧衛生の主要指標と結びつけながら、医療対策・健康増進・生活習慣病対策について考える。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 85 %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: 15 %		
特記事項: これまでの3か年の学習のまとめであり、看護師として必要最低限の習得すべき知識であり、国家試験受験資格として評価判定する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 毎回の授業時に小テスト、終了後にまとめて本試験を実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 毎回の授業でフィードバックし、最終試験に備える。						
授 業 計 画			準備学修(予習・復習等)			
			学修内容	学修に必要な時間(分)		
①【村井】基礎医学について考える。			・国民衛生の動向、テキストの確認		【予習】120分 【復習】120分	
②【稲垣・古里】母性・小児・母子の保健等と看護について考える。			・学習事項についてノートを作成		【予習】120分 【復習】120分	
③【高田・高橋】基礎看護について考える。			・不明事項の書き出し、事前学習		【予習】120分 【復習】120分	
④【坂東・千】精神保健について考える。			・小テストの振り返り		【予習】120分 【復習】120分	
⑤【小倉・大橋】疾病対策(腎疾患・リウマチ・アレルギーなど)について考える。			・不確かな事項についての事後確認・質問		【予習】120分 【復習】120分	
⑥【中田・高橋】疾病対策(がん、難病)などについて考える。			・答えだけでなく「なぜか」根拠を明確にする訓練をする		【予習】120分 【復習】120分	
⑦【荒木・炭谷】地域包括ケア、介護保険、在宅看護などについて考える。			上記について毎回確実に実施すること		【予習】120分 【復習】120分	
⑧【米山】医療対策・感染対策・生活習慣病対策などについて考える。					【予習】120分 【復習】120分	
⑨【炭谷・泉】各教科評価判定、総合試験						
使用テキスト: 看護関連のこれまでの使用したすべてのテキスト 国民衛生の動向(厚生統計協会) 図説 国民衛生の動向(厚生統計協会) ISBN978-4-87511-777-3				その他参考文献など: 国民の福祉の動向(厚生統計協会) 国家試験問題集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各授業は3か年の授業の振り返りであることを意識し十分に準備をして臨まれることを望みます。 「看護師国家試験」に向けての最終のまとめの授業となります。						

看護学科

科目名: 総合実習			担当教員 氏名: 高橋絹代とりまとめ 他						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	3年次	後期	専門科目	実習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護の実務経験を活かし、実習を通して看護専門職としての知識、技術、態度を教授する						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
これまでの領域別実習経験を踏まえ、看護専門職の役割を認識しつつチームメンバーと					看護管理 看護提供システム 看護観 チーム医療				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)									
A 知識・理解力			看護専門職としての自己課題について考えることができる						
B 専門的技術			複数の患者を受け持ち、優先度・時間配分を考慮した看護展開ができる						
C 論理的思考力			理論と実践の統合を目指し思考を深める						
E 自己管理能力			実習中の自己管理ができて欠席しない						
F チームワーク・リーダーシップ			病院・病棟における管理体制を把握し、看護チームにおけるリーダーの役割、メンバーの役割、メンバーシップについて理解できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	%	実技試験:	%	その他:	100 %
特記事項: ・評価は、出席状況、実習記録、課題レポート、実習中の学習態度で行う									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 学内実習では毎日の学修についてスライドにまとめ発表を行う									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習記録、発表スライド、について評価し、逐次記録への添削や、口頭で評価を伝える。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
3年次 2単位 90時間 実習病院: 射水市民病院、富山西総合病院、金沢医科大学氷見市民病院、 真生会富山病院、済生会富山病院、国立富山病院、厚生連高岡病院他					【予習】事前課題は実習前にまとめて提出。実習前日は、翌日の実習行動計画を立てる。 【復習】実習終了後は、一日の評価と学びを記録、実習終了後は、倫理と統合し次週要約を報告する	予習120分 復習120分			
使用テキスト: 資料は適宜配布します。					その他参考文献など: 事前の課題や資料は各自で検索すること				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ・体調に留意し、望んでください。欠席、遅刻は病院に迷惑をかけるので、極力しない。 ・提出物は期限厳守すること * 基礎・領域別実習の認定が必要な科目です。看護を統合させた実習となる									